



◆令和元年度の県政運営の評価について ◆介護職員確保対策の現状と今後の取組みについて ◆森林経営管理制度の推進について	県政クラブ 青木 彰榮 議員 長井市・西置賜郡選挙区 10月23日
◆SNSを活用したいじめ相談体制のあり方と いじめの認知件数の傾向について ◆出生率向上に向けた子育て支援・少子化対策の 取組みについて ◆児童虐待防止対策等について	自由民主党 榎津 博士 議員 寒河江市・西村山郡選挙区 10月23日

令和元年度山形県一般会計歳入歳出決算など17決算及び決算に関連した4議案は、決算特別委員会を設置して審査した結果、12月1日の本会議において、認定・可決されました。決算特別委員会の総括質疑における主な内容は次のとおりです。

決算審査の概要

新年のごあいさつ

皆様には、輝かしい新春を健やかに迎え、このことと謹んでお慶び申し上げます。

県議会では、新型コロナウイルス対策の更なる強化と災害に強い県土づくりを促進し、県民の皆様の安全・安心な暮らしを守るために全力で取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



金澤 忠一 議長

決 議

現在、新型コロナウイルス感染症は、全国的に急速な感染拡大が進んでおり、本県においても11月から感染者が急増しています。その中において、県民は、感染拡大の防止に細心の注意を払いながら、社会経済活動の両立に向け、懸命に取り組んでいます。

こうした状況の下、感染者やその家族、学校や勤務先等に対しSNS等の媒体による匿名での心ない誹謗中傷や、間違った情報の拡散、感染症に対する不安や恐れから感染者や感染経路を詮索する事例などが発生していることは憂慮すべきことです。

これらの行為は、偏見による不当な差別であり、人権擁護の観点からも看過できません。また、コロナ禍を契機として、山形県民が永い間培ってきた「思いやり」や「やさしさ」という美しい文化を失ってしまうことは、大きな損失であり、何としても防がなければなりません。

新型コロナウイルスは、気づかないうちに誰もが感染する可能性があります。今、私たちが行うべきことは、感染防止策の徹底であって感染者を誹謗中傷することではありません。医療・福祉従事者をはじめ多くの方々が困難な状況の中で頑張っています。今こそ、私たち一人ひとりが、共に支え合うことが何よりも大切なことです。

よって、本県議会は、誹謗中傷の根絶を目指すとともに、新型コロナの諸課題に真摯に取り組んでまいりますので、県民の皆さまにおかれましても、共に支え合いながら、この困難を乗り越えてまいりましょう。

**誹謗中傷をなくし共に支え合う
ことにより新型コロナウイルス感染症の
克服を目指す決議**

12月4日、令和2年12月定例会本会議において、新型コロナウイルス感染症を理由とした差別や偏見、誹謗中傷等をなくし、県民一人ひとりが共に支え合いながら、コロナ禍の困難な時期を乗り越えていくことを呼びかける決議を、次のとおり、全会一致で可決しました。



決議案を説明する加賀議会運営委員長

先ほど、変化することの大切さを話しましたが、変化を厭^{いと}わない者からイノベーションは起きていきます。ですから、変化に柔軟な、特に女性と若者を社会変革の原点にしようと考え、”未来は君たちのものだから君たちがつくりよう”と呼びかけています。

松本さんの言葉に岡田さんがうなずきます。

「ウイスキーの製造過程でもコンピュータで自動制御するなどデジタル化されている部分があります。理想の温度やテイスティングはやはりアナログな人の手や舌でコントロールしていくことが不可欠です。

また、ウイスキーづくりを女性が担当しているのは世界でも珍しいそうです。私たちと同じ世代の女性がウイスキーに興味を持ち、親しむきっかけになればと思います。

原酒を3年間寝かせ、2022年春頃の国内・海外同時発売を目標にしています。熟成具合で早まるか遅れるか、はつきりしていません。ただ、国内にクラフトウイスキーの蒸留所が50か所以上あるなかで、1、2位を争う味との高い評価もいただいています。

ものづくりへのこだわりと 技術者の喜び、誇りを



世界が憧れる山形初のジャパニーズウイスキーを目指し、2018年に最初に製造された記念すべき「0001」番の原酒から、現在は約1500本の樽が眠りにつき、販売のときを静かに待っている。

岡田さんが話す山形初となるウイスキーづくりに、これからの山形のものづくりの可能性を見る松本さん。

「手を抜かず手間暇かけ、心を砕きながらものづくりに向き合う姿勢を持ち続けることが、企業や商品の価値を高めていきます。今後のものづくりにおいて、これが何より大切だと改めて実感します」。

岡田さんが応えます。

「山形は、北海道出身の私でも身も凍るような厳寒の冬や、昼夜の寒暖差が激しい夏に代表されるくつきりとした四季があり、名峰から流れ出る清らかな伏流水や県土を覆う豊かな森林など自然に恵まれた土地だと思います。そのような風土が、ものづくりへの真面目さ、妥協を許さない品質へのこだわりを育んで来たのかもしれません。」

最後に松本さんは、大きな話題となった自社の樹脂製ビアグラスを開発・販売した理由を明かしてくれました。

「我が社の金型は、製造業のお客様の部品を作るためのものであり、普段、一般の人の目に触れることはありません。そこで、IBUKIの優れた樹脂成形技術を生かし、『私たちがつくっているものはこれです』と形に表すことで、社員に技術者としての誇りと喜びを感じてほしかったのです。

今後は、社内に限らずものづくりに関わるすべての人が、仕事で得意で、喜び合える機会を作りたい、やりがいを感じ合える舞台を用意したいと考えています」。

